



学校創立143周年

百年松

阿木名小中学校便り 令和5年2月13日発行

◇ 校訓「かしこく やさしく たくましく」
あ 明るく元気なあいさつができる子ども
ぎ りぎりまであきらめず努力する子ども
な 仲よく笑顔いっぱいの子ども
～花いっぱい、元気いっぱい、笑顔あふれる阿木名っ子～



阿木名小中学校

努力について

校長 井上 泉

目の前に大きな壺があります。みんなの体が入ってしまうような、大きな大きな壺です。その壺には「テストで90点を取りたい」と書いた札が貼り付けてありました。その壺に1日勉強するたびにコップ1杯の水を入れます。つまりコップの1杯水が「努力」なのです。最初の内は水を入れても入れても、水が増えた気配すら感じられませんでした。どれくらい水がたまったかを見たくても、大きすぎて壺の中にどれくらいの水がたまっているのか見ることはできません。



テストで九十点を取りたい

さて人間には弱い心があります。途中で「自分には向いていないのではないか」「努力をしても、全然進歩がない」「無駄な努力はやめよう」と、自分自身の努力に疑問をもつようになります。そしてコップに水を入れること、つまり努力をすることをやめてしまうのです。

逆に強い心もった人もいます。それは弱い心を克服できる人です。「この努力はムダではないか」と言う悪魔のささやきにも負けず、初心をつらぬく人です。コツコツ努力を続ける強い心をもっている人です。

そして毎日コップで水を入れていると、ある時、水の音が変わってきたことに気づきます。水を入れたら、ポチャン!と音がするのです。その音から確かに水がたまっていることを知るのです。こうなるとコップで水を入れるのが楽しくて仕方ありません。今まで1杯入れるのがやっとだったのが、「たまってきている」と実感できたことで、2杯3杯の努力を惜しまなくなってきました。これは自分に力がついてきたことを知るのと一緒です。勉強でもテストの成果が出ると、うれしくて益々勉強しようと思えますし、部活動でも結果が出ると、もっと練習したくなるものです。

ここまでくると、努力を「努力」と思うのではなく、生活の一部として取り組むことができます。そしていつか壺から水があふれ出すのです。努力を「苦」と思わなくなり、次のステップへとさらに向上していくのです。そして、はじめて努力の大切さを知ることができるのです。

新しい1年が始まって、1ヶ月。努力を楽しみながら、自分の目標に向かって頑張ります。応援しています。